

テーマ：新車販売台数（2011年4月）

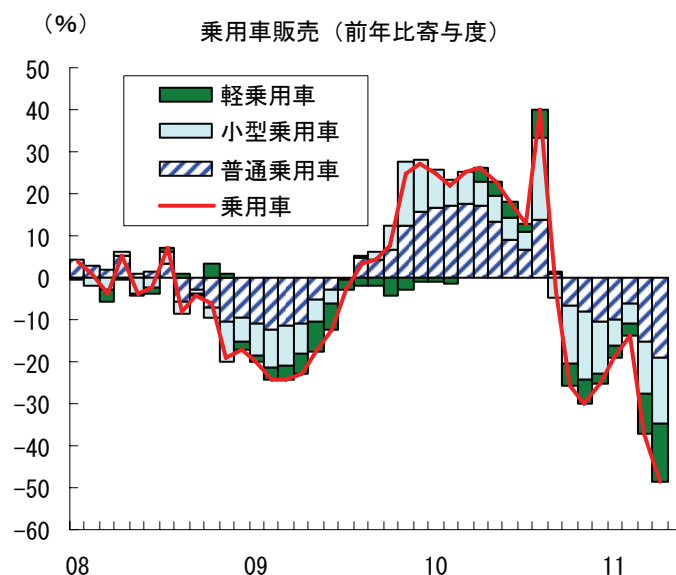
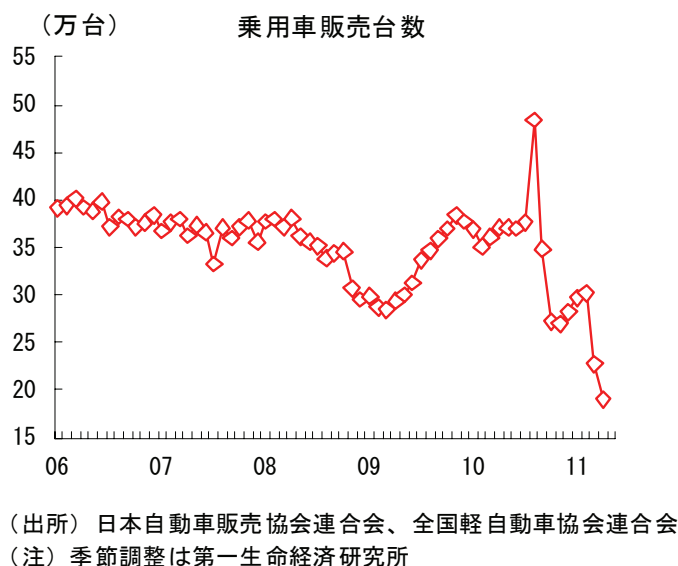
発表日：2011年5月2日（月）

～過去最大の減少。4-6月期の個人消費を大きく下押し～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴

TEL:03-5221-4528



○ 供給不足から過去最大の落ち込みに

日本自動車販売協会連合会が発表した4月の新車販売台数（軽自動車を除く登録車）は前年比▲51.0%（3月：同▲37.0%）となった。また、全国軽自動車協会連合会が発表した軽自動車販売台数は同▲41.1%（3月：同▲31.6%）だった。いずれも統計開始以来過去最大の落ち込みであり、大幅に落ち込んだ3月から更に減少幅を拡大させている。このうち、乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比▲48.5%（3月：同▲37.4%）となった。乗用車販売台数を季節調整値で見ても前月比▲16.1%と、3月（同▲24.9%）に続いて大幅に減少している。4月の水準は1-3月平均を30.8%も下回っており、震災の影響が非常に大きなものであったことが確認できる。

○ 4-6月期の個人消費を下押し

長期に及んでいる完成車工場の操業停止に伴って供給が不足したことが自動車販売に大打撃を与えている。3月については、震災前に生産していた在庫が販売できたため落ち込みは多少抑えられた面もあるが、4月には生産停止の影響が本格的に現れたことから、生産水準は更に低下することになった。

足元では工場の操業も徐々に再開されているが、再開後も稼働率が5割程度にとどまっていることを考えると、今後も供給不足は容易には解消されないだろう。5月以降には乗用車販売も前月比でプラスに転じる可能性が高いとみているが、4-6月期でみると大幅な減少は避けられないと予想される。前期比での明確な増加は7-9月期以降だろう。

自動車は個人消費に占める割合が高いため、影響は大きい。過度の自粛ムードが和らぎつつあることから、百貨店販売など一部の業態では4月以降持ち直しの動きも出ているようだが、自動車販売の落ち込みの悪影

響がそれを上回るだろう。GDP統計における個人消費は、1-3月期に前期比▲0.3%と減少が予想されるが、4-6月期には減少幅をさらに拡大させる可能性が高いとみている。